

童

2022年10月3日

大地の入り口の林檎の枝からは、林檎が消え、黄金色の田んぼは、茶色に変わり、ちょっぴり寂しさを感じる秋の入り口となりました。今年は、栗が豊作のようで、連日 栗が子ども達の手によって集められています。枝豆も豊作で、大地の東屋の囲炉裏は、連日フル稼働しています。煙の匂い 秋の匂いがたっぷり、子ども達の身体に染みこんでいるのではないのでしょうか。台風や雨が多いですが、田んぼの倒伏も林檎の落下も少なく、このまま平穏な秋を過ごしていきたいものです。

今年ほど、五穀豊穡を感じる時はありませんでした。春先に 田植えを前にした苗育てに失敗し、やり直して苗を育て、そこに無農薬栽培の大変さが加わり、毎日 犬の散歩を兼ねて、稲の生育を見守りました。更に、父親の死去の前後から、林檎栽培も低農薬で行い、こちら、初めての管理で 林檎を見守り。秋を迎えて、何とか実りを与えてくれました。まさに、農家の人が、子どもを育てるように、天候や環境を気にして、手塩にかけて育てる、水や雨や土や病気を心配して、畑や田んぼへ出かけることなどが 身にしみて痛感できました。昨日終えた稲刈りも、落ち穂拾いは、生まれてから初めてなくらい、丁寧にやりました。やはり、愛情が違います。

秋は、子ども達の口を楽しませてくれる事がことさら多い毎日です。秋の味覚は、ダイレクトに口に入るものを優先的に味わいたいですね。加工したり煮炊きするよりも、直接口に入れる感激。まさに、生栗を食べる子ども達が表現してくれます。

また 秋の収穫味わいは 春先から手作業で地道に行い、草取りなどの管理をして、初めて味わう資格がいただけるものだと思います。その意味で、秋の味わいは、それまでの愛情とずくで決まるのでしょうか

まさに 育児の味わいと同じですね。



【草津温泉】

10月2日 母親は91歳の誕生日を迎えました。長生きの象徴で、30年以上のろうそくを立て、ずっと行ってきた林檎栽培から 紅玉を収穫して、見事なアップルパイを作り、家族や孫やひ孫でお祝いしました。「温かな家族や孫に囲まれている事が最高の幸せ」だと号泣している姿がありました。

6月に長年連れ添った夫(父親)を亡くし、弱気になり寂しさをひしひし感じ、衰えていくのを心配していましたが、妻や孫やひ孫達の愛情で、ようやく安定してきたように思えます。昨日の稲刈りでは、往年の勇姿を見せてくれ、わら東を腰につけ、稲をまるけて、更に 若い人達と一緒に しゃがみ込んでひたすらヒエ抜きをして、朝からずっと頑張ってくれました。食欲も旺盛で、おやつも間食もたっぷり味わっています。

先日は、補聴器や眼鏡も揃えました。90歳を過ぎて これだけ揃えるのも珍しいような珍しくないような時節の用です。長生きで頑張る人は、新調する反面、どうせ 行く先が長くないのだから無駄な出費(補聴器とは 凄い値段であることを知りました)をしてもしょうがない(これは 若い人に迷惑をかけたくない と 若い人が 無駄だと考える両面がある)という事です。

1日1日が、私たち以上に貴重な大切な日々です。それならば、楽しい充実した日々を過ごして欲しい、現代では想像もできないような苦勞 苦難 忍耐 をしながら育ててくれた事への感謝と孝行を考えれば、当然の如く、幸せな毎日を送って欲しいと願うのは当然です。

6月以来、30年ぶり位に同居を始めました。それに伴い、得意のリフォームを矢の如く行ってきました。(現在でも続行中)高齢者でも過ごしやすく、かつ 我々も楽しく過ごせるように。幸い 20年前に、青ちゃんが設計 一部施行基礎 給排水設備 床張り等) しただけに、楽しみでした。そのあまりの早さに、母親は 姉に 「それは、嬉しいけれど、しばらくは 父親との思い出をゆっくりと味わわせて欲しい」とこっそりと告げたらしい。それでも、母親は、結構 ハイカラで、新しいものには適応する性格です。食事も パンやスパゲティやピザも大好きです。60代で、2週間ほどヨーロッパ旅行を楽しんだり、新しいものにも好奇心があります。

お風呂の脱衣所の断熱改装工事の板張りの壁を喜んでくれ、台所のレイアウトから全面改装を、まるでこびとの靴屋だと驚いてくれ、なんとと言っても薪ストーブの暖かさに感激してくれました。

更にうれしいことは、なんとと言っても妻の料理を、理解し喜んでくれること。先日、介護 0 ようやく取り付けた支援 1 という介護認定。デイサービスでも週に一度位 暇つぶしに行ったらどうかと薦めて、先日 体験で行ってきたところ、もう一歩だったようで、お腹がすいた、食べるものが無かった と言っていました。メニューを聞いたら、普通の高齢者には適度なものでしょう。それは、やはり 家での食事が豊かなせいだよ、家では 旨いもの食べ過ぎなんだよという結論。「本当に 伸子さんが 手間暇かけて 毎日作ってくれるから お惣菜とか出来合のものを買ってきたりしなく、電子レンジも使わないから、本当に幸せだ」「そうだよ 俺も 毎日 いくら疲れていても よくこれだけの品数を作るよな」と思っているんだよ」と。この会話で、妻は 最高に嬉しそうでした。

孫やひ孫が訪れたら、一緒に庭の芝生でバーベキューを楽しんだり、高原の草原で野外ランチをしたり、山へ行ったりして、私たち夫婦の日常の暮らしにもしっかりと同伴したり、見守ってくれたり、ほとんど 同居前と変わらない精神状態で、お互いに暮らす事ができています。それも、心身共に健康でいてくれるからです。感謝です。

先日 妻と姉と母親の4人で、一泊草津温泉へ出かけてきました。草津温泉も、若い人達で連日大盛況なおしゃれな戦略で深夜までにぎわっている温泉地です。大地から志賀高原を越えて2時間足らずで着きます。約50キロです。この草津温泉には、母親は 小学生の時の遠足で行ったそうです。(母親の実家は信濃町) えー!!と思わず耳を疑いましたが、本当でした。それに比べたら現代ではやわなこった と思い、大地では長距離散歩を再開しました!!

その草津温泉へはただでは行かないところが青山家。テーブル椅子を積み込み、志賀高原の静かな池の畔で始まったばかりの紅葉を見ながら、昼食ランチ。白根山の芳ヶ平の光景を見ながらティータイム。そして、草津温泉へ乗り込み、とっておきの食べ放題ジェラート屋で足湯の浸かりながら味わい、湯もみショー見物 夕食 夜の湯畑散歩 焼き鳥などと一緒に楽しみ、翌朝は散歩 散策 お土産買い 帰日も志賀高原横手山ラッキー登山 2300 分の山頂でランチティータイム と、三浦雄一郎並のエネルギーで、楽しんで来ました。

まもなく 秋が深まり 次第に寒さが増していきます。やはり 高齢者には寒さが一番の強敵です。家の周囲には、薪がびっしり積み込まれています。ちなみに、この部落 60 戸ほどには、薪ストーブはないようです。ゴミを燃やしたり畑での野焼きの煙がありますが、そして、その一軒から 薪ストーブの煙が まもなくあがることでしょう。

「しげるちゃんちが また火事になっている (10年前の元旦のものはな文庫火災)」と間違われぬように、温かい冬を、母親とともに迎えたいものです。